

平成二十六年 第五期くまもと俳句ポスト

第五期開函

俳誌「霏霏」主宰 星永 文夫 選

特選

小楠に国是を問ふや蟬時雨

宮崎県都城市

西浦征志

【講評】「小楠」とは横井小楠、熊本が誇る幕末の政治家・思想家のこと。明治新政府の樹立にも関与したが、キリスト教を広めようとしていたなどと誤解され、暗殺された。その人の住居が秋津町沼山津（熊本市）に今も残り、四時軒しじけんという。

この句はたぶんそこに立つての作であろう。時に降るほどの蟬時雨の中、今後の日本はどうあるべきか、小楠に問うという、憂国の骨太ますらおい大夫ぶりの慨嘆がいい。

入選

梅雨空に『停車場にて』の佇まい

熊本県熊本市

内田哲二

夜風切る上がり灯籠君が袖

熊本県山鹿市

松尾光浩

漱石が逃げて来たりし肥後の春

福岡県福岡市

栗下純也

佳作

笹とりて茅の輪をくぐる味噌天神

熊本県熊本市

中村文三

清正の井手の滔々青田風

熊本県熊本市

野崎一雄

秋暁の阿蘇にきらめく一番機

長野県小諸市

田中匡子

清正公の兜に鴉の鬨の声

群馬県高崎市

吉井巧

隼人の血流れし坂に彼岸花

熊本県宇土市

朝長久典

夏の風漱石旧居を通り抜く

熊本県熊本市

宇野木邦子

城内に良夜の人出ありにけり

熊本県熊本市

山崎綾子

秋高し寮歌の聞こゆ記念館

福岡県広川町

水本艶子

随兵の背中をそつと秋の風

熊本県熊本市

橋本陸太

焼酎も好みて無官肥後暮し

熊本県熊本市

乾井ふじ子

投句総数

四一一句

市外

八九句

市内

三三二句

開函日 平成二十六年十月三十一日